

# 街頭スピーチ原稿(参考例)

総選挙向け／共通部分＋話題

この原稿の使い方

- 1) まず「共通部分」をそのまま読みます(導入～問題提起)。
  - 2) 「話題その1～7」から、時間に合わせて1～2本だけ選びます。
  - 3) 最後に「共通部分2(締め)」で着地します。
- ※ 目安:共通部分(約1～2分)＋話題1本(約2～3分)＋締め(約30秒)

## 共通部分(導入)

市民のみなさん、ご通行中のみなさん、こんにちは！  
私たちは、(国連認証NGO・原水爆禁止日本協議会)です。  
核戦争阻止、核兵器の全面禁止・廃絶、被爆者援護・連帯を目的に活動しています。  
毎年、広島と長崎で世界大会を開き、国連や各国政府の代表とも協力しながら、核兵器廃絶を訴えています。

この場をお借りいたしまして、核兵器のない平和な世界、核兵器禁止条約に参加する日本の実現にむけて、みなさんに心より呼びかけます。

みなさん、

衆議院が解散し、総選挙となりました。

私たちは、この総選挙が、「アメリカ言いなりの『軍事優先の日本』か」、「『非核平和を貫く日本』か」、という日本の進路を決める大事な機会だと考えています。

被爆国にふさわしい政治、非核三原則を守り、核兵器のない平和な世界につながる政治、私たちが豊かで安心して暮らせる政治を実現しましょう。国会の中に非核平和を貫く声を強く大きくしましょう。

## 話題その1:解散の経緯と高市政権の危うさ(国内政治)

使い方(目安)	メモ
2分から3分	(必要ならここに演説者の名前／場所などを書き込む)

第220回通常国会冒頭で、高市早苗首相率いる内閣は衆議院を解散しました。政権発足からわずか2カ月です。なにひとつ政策議論は進んでいません。物価高騰にあえぐ国民生活をどう支えるのでしょうか。「政治と金」の問題は、まるでもう終わったことのようにです。

逆にこのわずか2カ月間、高市自民・維新政権が進めた安全保障・外交政策やそれにもとづく国会答弁は、戦争の準備、それも核戦争へと国民を引きずり込むたいへんおそろしいものです。

高市早苗首相は国是である非核三原則の堅持について明言を避け、その著書「国力研究」の中で、安全保障上非核三原則が「じゃま」になる場合があるとしています。「核保有の必要性」について言及した政府高官についても黙認しています。中国との関係悪化を招いた国会答弁は、日本が直接攻撃されなくても、アメリカとともに戦争に加わることを意味していました。

いま、南西諸島をはじめ日本全土に、長距離射程ミサイルの配備が進められています。核戦争も想定し自衛隊の基地を強化しています。アメリカ言いなりで増え続ける防衛費はおよそ11兆円まで膨れ上がっています。

今回の解散・総選挙は、こうした問題について国会で追及されることを避け、政権の支持率が高いうちに存続をはかろうとする思惑が見えます。大義もなければ道理もありません。

核兵器で、私たちのくらしや安全を守ることはできません。たった一つの過ち、たった一発でも核兵器は人類を破滅へと追いやる悪魔の兵器です。これまで日本政府は核兵器禁止条約の促進に反対の立場を取ってきました。高市自民・維新政権も、去年の国連総会で反対票を投じています。広島・長崎の惨劇を二度と繰り返すまいとたたかう被爆者の命がけの思いを踏みにじっているとした言いようがありません。

みなさん、繰り返しとなりますが、この総選挙は「アメリカ言いなりの『軍事優先の日本』か」、「『非核平和を貫く日本』か」、という日本の進路を決める大事な機会です。私たち【原水爆禁止日本協議会(日本原水協)】は、創立以来、核戦争阻止、核兵器全面禁止・廃絶、被爆者援護・連帯を貫いてきました。非核三原則を守り、核兵器禁止条約に参加する、被爆国にふさわしい政治の実現しましょう。国会の中に非核平和を貫く声を強く大きくしましょう。

変えるのは今です。そして変えるのは私たちです。

## 話題その 2:核大国の暴走と日本の立ち位置(国際情勢)

使い方(目安)	メモ
1 分から 2 分	必要ならここに演説者の名前／場所などを書き込む)

「国際法は私には必要ない」とすら口にする米国トランプ大統領、ウクライナ侵略が 5 年目を迎えるロシア、そしてガザでの虐殺を続けるイスラエル。フランスやイギリスは核抑止力の「見える化」をすすめています。中国もその核兵器の数を増やし続けています。スウェーデンの研究所は、全世界の核兵器の数は 1 万 2241 発と推計しています。

核大国は核兵器を振りかざし、力で支配しようとしています。それは、なんの罪もない犠牲者を生み出すだけです。核兵器のような非人道的な力を、私たちは「抑止力」として頼っていていいのでしょうか。核兵器では、私たちの命も安全も守ることはできません。

核兵器禁止条約への参加をすすめる大きな流れを、さらに強く大きくすることが望まれます。しかし、日本は、核兵器禁止条約の促進に、国連総会で反対の立場をとり続けています。

「非核三原則のうち、持ち込みは認めてもいいのではないか」、「核保有も認めていいのではないか」という声が、高市首相をはじめ、自民・維新政府の中から聞こえてきます。

被爆者の声を、被爆の実相をあらためて伝えることが重要です。人間として生きることも死ぬことも許さない核兵器の非人道性、広島・長崎の惨劇を二度と繰り返すまいとたたかう被爆者の命がけの思い、ノーベル平和賞を受賞した被爆者の運動を、私たちは学ぶ必要があります。

核兵器禁止条約に日本も参加し、その先頭に立つよう、ごいっしょに求めて参りましょう。非核三原則を守り、核兵器禁止条約に参加し促進する政治へと、私たちが変えていこうではありませんか。

### 話題その 3:被爆者の訴えと核兵器禁止条約(TPNW の意義)

使い方(目安)	メモ
1 分から 2 分	必要ならここに演説者の名前／場所などを書き込む)

被爆者のみなさんは「自らを救うとともに、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と命がけで世界に訴えてきました。被爆者とともに反核平和をのぞむ声が世界を変えてきました。

2021 年 1 月 22 日に発効した核兵器禁止条約は、核兵器の開発・保有・使用・威嚇などを全面的に禁止し、核兵器廃絶を目指す国際条約です。被爆者支援や環境修復の義務も定められています。いまや署名・批准を合わせて 99 の国が条約に加わり、世界的に広がっています。

広島・長崎への原爆投下によって死亡した人の数については、現在でも正確には分かっていません。1945 年末までに、広島 約 14 万人、長崎 約 7 万 4 千人(合計約 21 万 4 千人)が亡くなったと推計されています。

核兵器は「人間として生きること死ぬことも許さない」非人道的な兵器です。誤作動やミスはもちろん、テロなどで爆発すれば、原発事故の比ではなく、確実に人類の破滅をもたらします。

「核兵器はもたず、つくりず、もちこませず」という非核三原則は、現代でもその光を失っていません。唯一の戦争被爆国であり、非核三原則を国是とし、平和憲法を持つ日本こそ、核兵器禁止条約に参加し、その促進の先頭に立つことを世界が待っています。

核兵器のない世界を実現するのは私たちです。

核兵器禁止条約を促進する多くの国々、市民と手を携え、非核三原則を守り、核兵器禁止条約に参加し促進する政治へと、私たちが変えてまいりましょう。

#### 話題その4:軍事費の拡大と暮らし(予算・生活)

使い方(目安)	メモ
2 分程度	必要ならここに演説者の名前／場所などを書き込む)

「核兵器を保有する大国間での領土や経済を巡っての勢力争いが激化し、核軍縮・廃絶に向けた動きも頓挫している」核兵器禁止条約発効の日に向けて、広島・長崎両市長は共同の声明の中でこう指摘しています。

世界の軍事費はおよそ 2.7 兆ドル(424 兆円)を超えています。国連が提唱する SDGs(持続可能な開発目標)達成に必要な開発資金を大きく圧迫しています。

たとえば 2030 年までに飢餓に終止符を打つために年間で必要な額(930 億ドル)は、世界の総軍事支出の 4%にも及びません。10%強(2,850 億ドル)あれば、すべての子どもたちがワクチン接種を完全に済ませることができます。5 兆ドルがあれば、低所得国・下位中所得国のすべての子どもたちに質の高い教育を 12 年間提供するだけの資金を確保できるのです。

東アジアでの中国を念頭に置いた米国の世界戦略・核戦略において、日本と韓国が米国の代わりに中国を牽制する役割、いわば「防波堤」となることを望んでいます。1 月 24 日、アメリカのトランプ大統領は全同盟国に、軍備増強とそれにとまなう軍事費を GDP 比 5%まで増加させる要求を発表しました。

2025 年度の防衛関係費は 8.7 兆円、2026 年度は 9.9 兆円です。2025 年度は当初予算、補正予算、関連経費を合わせると 11 兆円を超える軍事費(防衛費)が計上されています。およそ 1 億 2 千万人の日本の人口で割ると、ひとりあたり大人も生まれたばかりの赤ちゃんも 9 万円を超える金額を軍事費に支出していることになります。

私たちの教育、社会保障、高騰する物価、農林水産など食料の安定供給などの予算は低い水準で抑えられたままです。進む少子高齢化への具体的な方策も立てられていません。減額され続ける年金、引き上げられる国保料、高齢者の窓口負担。教育や文化に対する予算も、もっと手厚くすべきです。実質賃金は諸外国に比べて大きく下回り、この 20 年、低下し続けています。

私たちが選ぶのは軍拡と破滅の道ではなく、核兵器廃絶と私たちの暮らしを豊かにする道です。平和と暮らしを守るために、未来の世代のために、みなさんと一緒に力を合わせましょう。

## 話題その 5:『台湾有事』と非核三原則(戦争に巻き込まれない政治)

使い方(目安)	メモ
1 分から 2 分	必要ならここに演説者の名前／場所などを書き込む)

昨年、高市早苗首相の「台湾有事は存立危機事態になり得る」との国会答弁が、日中関係を大きく悪化させました。

「台湾有事」は、「中国の統一」を国家目標としている中国が、台湾に武力行使・軍事的衝突を起こす事態を一般的には指します。こうした軍事的な衝突が偶発的にも起こった場合について、高市首相は、日本への直接的な攻撃でなくても、米国などの密接な関係にある国への攻撃を理由に、その国とともに、あるいはその国にかわって戦争に参加することを明言したのです。

軍事費の増大とともに、日本の南西諸島をはじめ日本全国で、化学兵器、核兵器も想定した基地の強靱化、ミサイル部隊の配備、核兵器搭載可能な B52 爆撃機や F35 戦闘機などを使った日米共同演習も繰り返されています。

「核兵器をもたず、つくらず、もちこませず」という非核三原則は日本の国是です。

しかし、米軍による核兵器の持ち込みを認めないかどうかについて、高市早苗首相は明言していません。高市首相はみずからの著書の中で、非核三原則は安全保障上「邪魔」になるとしています。

みなさん、本当に核兵器が安全を守りますか? 「核抑止」という言葉で正当化されますが、誤作動や一歩判断をあやまれば、世界は破滅に追い込まれます。

核兵器の惨劇・地獄を、二度と繰り返させてはなりません。

核兵器禁止条約はすでに多くの国が支持し、日本でも世論調査で7割以上が参加を求めています。全国の自治体でも決議が広がっています。唯一の戦争被爆国である日本が先頭に立つことを、世界は待っています。



## 話題その 6:田中熙巳さんの問いかけ(被爆者の言葉で結ぶ)

使い方(目安)	メモ
1 分程度	必要ならここに演説者の名前／場所などを書き込む)

みなさん、本当に核兵器が安全を守りますか？「核抑止」という言葉で正当化されますが、誤作動や一歩判断をあやまれば、世界は破滅に追い込まれます。核兵器が引き起こす惨禍を、私たちは被爆者の証言から知っています。人間らしく生きることも死ぬことも許さない、その非人道性を、二度と繰り返させてはなりません。

「こんな悪魔の道具、兵器とすら認められない非人道的な核兵器を抑止力として認めていいのですか」広島被爆者で、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の田中熙巳代表委員はこう問いかけています。

地獄をこの世に呼び覚ます核兵器の力を、「抑止力」等と正当化し、頼るのはもうやめましょう。核兵器禁止条約を促進する多くの国々、市民と手を携え、「核兵器のない世界」を私たちの子どもたちに残す選択をしようではありませんか。

## 話題その 7:国際法・気候危機と憲法(広い平和の論点)

使い方(目安)	メモ
1 分から 2 分	(必要ならここに演説者の名前／場所などを書き込む)

「国際法は私には必要ない」とすら口にし、横暴を続けるアメリカのトランプ大統領の無法な軍事攻撃、力による支配をめざす動きに対して、アメリカ国内でも、ヨーロッパでも数万人規模での反対運動が起こっています。トランプ大統領は、世界保健機関(WHO)をはじめ、多くの国連機関や条約からの脱退を表明しています。

気候危機など、国連などの国際機関とともに連携し、人類がともに手を取り合って解決すべき課題がたくさんあります。

特に、気候危機は地球温暖化による熱波、洪水、干ばつなどの極端な気象災害が頻発・激甚化し、人類や生態系の存続が脅かされているまさに緊急事態です。そして、その最大の要因の一つは戦争です。戦争は甚大な環境破壊を引き起こし、大量の温室効果ガスを排出して、気候危機を加速させています。

「いずれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならない」日本国憲法前文の言葉です。今年は憲法公布 80 年です。人種、信条、性別などを超え、ともに認め合い、ともに生きていく。戦争の惨禍、過ちはくりかえさないという反省のもと、平和で豊かな世界に貢献しようと誓ったのが日本国憲法でした。

今求められているのは、国連憲章と憲法を生かした外交・政治です。非核三原則を守り、核兵器禁止条約に参加する、唯一の戦争被爆国にふさわしい政治へと、ご一緒に転換させて参りましょう。

---

### 共通部分 2(締め)

繰り返しとなりますが、

この総選挙は、「アメリカ言いなりの『軍事優先の日本』か」、「『非核平和を貫く日本』か」、という日本の進路を決める大事な機会です。被爆国にふさわしい政治、非核三原則を守り、核兵器のない平和な世界につながる政治、私たちが豊かで安心して暮らせる政治を実現しましょう。

国会の中に非核平和を貫く声を強く大きくしましょう。

ご清聴ありがとうございました。